

ウズベキスタン公開情報とりまとめ (7月9日～7月29日)

令和3年7月30日

1. 政治

【ミルジヨーエフ大統領動静】

●ミルジヨーエフ大統領と王毅・中国外交部長との会談

・7月15日、ミルジヨーエフ大統領は、ウズベキスタンを公式訪問した王毅・中国国務委員兼外交部長と会談を行った。

・両国の友好関係及び全面的な戦略的パートナーシップをさらに強化するという焦眉の問題が検討された。

・王毅外交部長は、習近平中国国家主席の心からの挨拶を「ミ」大統領に伝達した。中央アジア・南アジアの相互連結性を発展させるための「ウ」のイニシアティブが評価・支持され、タシケントで開催される会議が成功裏に開催されるとの確信が表明された。

・会談の中で、貿易・経済、投資、金融・技術、文化・人的交流、その他の多面的な協力分野における共同プログラム及びプロジェクトの推進を含む、首脳レベルでの合意の実施に特に注意が払われた。パンデミック対策における緊密な協力を継続する重要性が指摘された。

・アフガニスタン情勢を含む、国際的な議題について意見交換が行われた。

(7月15日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・アフガニスタン首脳会談

・7月15日、ミルジヨーエフ大統領は、国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」に出席するためにウズベキスタンに到着したガーニ・アフガニスタン大統領と会談を行った。

・会談の中で、地域の安全及び持続可能な発展の確保に関する協力の展望が検討された。

・両首脳は、アフガン紛争の軍事的解決が不可能であることを再確認し、アフガニスタン人同士の包括的対話の一刻も早い再開を支持した。

・「ミ」大統領は、「ウ」が「ア」における持続可能な平和の達成を積極的に支援する用意があることを確認した。

・双方は、二国間の貿易・経済協力の前向きな発展を満足の意をもって指摘した。パンデミックにもかかわらず、今年に入ってから5か月で、両国間の貿易量は50%増加した。「ウ」において、「ア」資本が関与した160社の企業が新設された。

・中央アジア地域と南アジア地域間の相互連結性の強化及び「ア」の輸送能力の拡大を目的とした、「テルメズーマザーリシャリーフーカブールーペシャワール」鉄道の建設及び新たな送電線「スルハンブプリムリ」の建設プロジェクトなどの実施といった、運輸・エネルギーインフラの共同プロジェクトをさらに推進する重要性が指摘された。

・双方は、二国間及び地域協力のさらなる発展、達成された合意の実務的な実施の確保への確固たるコミットメントを強調した。

(7月15日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・パキスタン首脳会談

・Gazeta 特派員は、(7月15日)ミルジヨーエフ大統領とカーン・パキスタン首相が両国間の戦略的パートナーシップの設立に関する共同宣言に署名したと報じた。

・「ミ」大統領は、これは両国が入念に準備してきた、両国関係の歴史における重要な一歩であると述べた。

・両国の省庁トップは、(今次のウズベキスタン)訪問の枠内で署名された8つの文書を交換した。その中には、運輸及び貿易、並びにビジネス界及び観光グループの代表者のための査証手続きの簡素化に関する政府間合意が含まれる。

・さらに以下が署名された。

(1) 両国国防省間の軍事教育分野における協力に関する議定書

(2) 2021年～2026年の文化交流プログラム

(3) 観光に関するMOU

(4) 国境を跨ぐ商品及び交通手段に係る事前情報の交換に関する議定書

(5) 世界経済外交大学と「パ」外交官勤務アカデミーとの間のMOU、「ウ」・「パ」ビジネス評議会の設立に関する合意

・「ミ」大統領は、今次訪問の枠内での政府間委員会会合及び両国ビジネスフォーラムの結果、5億米ドルの協定が署名された旨指摘した。

・「ミ」大統領は、両国間には貿易・経済分野において活かされていない大きな潜在性があり、二国間貿易量を4～5倍増加できる可能性がある旨指摘した。

(7月15日付 Gazeta)

●ミルジヨーエフ大統領とラヴロフ露外相との会談

・本日(7月16日)タシケントで開催されている国際会議の-marginで、ミルジヨーエフ大統領は、ラヴロフ露外相と会談を行った。

・戦略的パートナーシップ関係のさらなる強化及び多面的な協力の拡大について議論された。

・同外相は、プーチン露大統領の挨拶を「ミ」大統領に伝達した。

・次回首脳会談の準備、特に貿易・経済及び文化・人的交流分野における共同プログラム及びプロジェクトの推進に特に注意が払われた。

・アフガニスタン情勢の激化という文脈での地域協力の発展が検討された。

(7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とシャーウッド・ランドール米国土安全保障担当大統領補佐官との会談

・7月16日、ミルジヨーエフ大統領は、タシケントで開催されている国際会議の行事の枠組で、シャーウッド・ランドール米大統領補佐官(国土安全保障担当)率いる米代表团と会談を行った。

・二国間の喫緊の議題及び国際政治の問題が検討された。

・「ミ」大統領は、近年の両国の戦略的パートナーシップ関係及び多面的協力のダイナミックな発展を

満足の意をもって指摘した。

- ・同補佐官は、バイデン米大統領の心からの挨拶を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・米政権が、中央アジアと南アジアの相互連結性の強化に関する「ミ」大統領のイニシアティブを高く評価している旨強調された。
 - ・さらに、「ウ」の主権、独立、領土一体性、新たな「ウ」の形成に関して行われている改革、並びに中央アジア地域における信頼、善隣及びパートナーシップの強化に関する取組が強く支持された。
 - ・会談において、建設的な政治対話の継続、並びにパンデミックの拡大対策及び住民のワクチン接種、米の主要な企業及び銀行が参画する共同投資プロジェクトの推進を含む、二国間協力の拡大の実務的側面が議論された。
 - ・アフガニスタンにおける現在の情勢について詳細な意見交換が行われた。
- (7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とトレウベルディ・カザフスタン副首相兼外相との会談

- ・(7月16日)ミルジヨーエフ大統領は、国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」の行事に出席しているトレウベルディ・カザフスタン副首相兼外相と会談を行った。
 - ・両国の友好、善隣及び戦略的パートナーシップ関係をさらに強化するという焦眉の問題が議論された。
 - ・同外相は、トカエフ・「カ」大統領及びナザルバエフ・「カ」初代大統領(エルバシ)の心からの挨拶及び祝意を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・来るべき首脳級イベントの準備、並びに両国間の経済協力プロジェクト及び互恵的協力プログラムの推進に特に注意が払われた。
 - ・アフガニスタン情勢及びトルクメニスタンにおける8月初旬の次回中央アジア諸国首脳協議会合の準備の文脈で地域的な議題が検討された。
- (7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とジャパロフ・キルギス内閣副長官兼経済・財務大臣との会談

- ・(7月16日)ミルジヨーエフ大統領は、タシケントにおける国際会議においてキルギス代表団を率いるジャパロフ内閣副長官兼経済・財務大臣と会談を行った。
 - ・二国間の議題及び地域協力の問題について意見交換が行われた。
 - ・同副長官は、ジャパロフ・「キ」大統領の心からの挨拶及び祝意を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・本年3月の両国首脳会談の中で採択された合意及び協定の実務的な実施について議論された。
 - ・産業、エネルギー、農業、運輸及び物流分野における優先的な協力プロジェクトの一刻も早い推進、合併投資会社の活動の組織化の重要性が強調された。
- (7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とシロジッディン・タジキスタン外相との会談

- ・(7月16日)タシケントでの国際会議のプログラムの枠組で、ミルジヨーエフ大統領は、シロジッディン・タジキスタン外相と会談を行った。
- ・友好、善隣、戦略的パートナーシップの二国間関係を強化し、両国の関係を具体的な内容で満たした、

本年6月11日～12日の首脳レベル（「ミ」大統領）の歴史的な「タ」訪問の実りある結果が高く評価された。

- ・ 同外相は、ラフモン・「タ」大統領の友愛に満ちた挨拶及び温かい祝意を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・ 会談において、採択された「ロードマップ」に基づいた、経済の様々な分野における優先的プロジェクト及び文化・人的交流プログラムの推進が議論された。
 - ・ アフガニスタン方面の情勢、中央アジア首脳協議会合及び上海協力機構（SCO）首脳会合の準備といった喫緊の地域的な議題が検討された。
- （7月16日付大統領府ウェブサイト）

●ミルジヨーエフ大統領とメレドフ・トルクメニスタン副首相兼外相との会談

- ・ 本日（7月16日）、タシケントの国際会議の枠組で、ミルジヨーエフ大統領は、メレドフ・トルクメニスタン副首相兼外相と会談を行った。
 - ・ 首脳レベルにおける定期的なやりとりにより、善隣及び戦略的パートナーシップの多面的な両国関係が引き続き前向きに強化されている旨特に指摘された。
 - ・ 同副首相は、ベルディムハメドフ・「ト」大統領の温かい挨拶及び祝意を「ミ」大統領に伝達した。中央アジア及び南アジアの地域の相互連結性の発展に関する「ミ」大統領のイニシアティブが高く評価された。
 - ・ 二国間の実務的協力のさらなる拡大が検討された。政府間合同委員会の次回会合を実施する重要性が指摘された。
 - ・ 本年8月6日に「アワザ」国立観光ゾーンで実施される、中央アジア諸国首脳協議会合の準備状況が議論された。
 - ・ アフガニスタンで発生している困難な情勢について意見交換が行われた。
- （7月16日付大統領府ウェブサイト）

●ミルジヨーエフ大統領とムスタファエフ・アゼルバイジャン副首相との会談

- ・ （7月16日）タシケントの国際会議のマージンで、ミルジヨーエフ大統領とムスタファエフ・アゼルバイジャン副首相の会談が行われた。
 - ・ 両国の互恵的協力のさらなる発展、伝統的に緊密かつ友好的な二国間関係の強化が議論された。
 - ・ 同副首相は、アリエフ・「ア」大統領の心からの挨拶及び祝意を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・ 会談の中で、特に貿易、産業、農業、運輸及び物流分野におけるプロジェクトの推進に関する実務的協力の増大、並びに文化・人的交流プログラムの実施に特に注意が払われた。
 - ・ 来るべき首脳会談の準備の枠組で、政府間委員会次回会合及びビジネス評議会の実施、第1回地域間フォーラムのアレンジについて合意に達した。
- （7月16日付大統領府ウェブサイト）

●ミルジヨーエフ大統領とチャヴシュオール・トルコ外相との会談

- ・ 7月16日、タシケントの国際会議の枠組で、ミルジヨーエフ大統領は、チャヴシュオール・トルコ外相と会談を行った。

- ・会談において、両国の多面的関係における喫緊の問題が検討された。
 - ・「ミ」大統領は、「ト」との関係における生産的かつ集中的な特性を満足の意をもって指摘した。両首脳の定期的な対話は、友好及び戦略的パートナーシップの絆を強化し、二国間協力を具体的な内容で満たすことに寄与する。
 - ・同外相は、エルドアン・「ト」大統領の温かい挨拶と祝意を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・会談において、戦略的協力評議会第2回首脳会合の準備及び実施の問題に特に注意が払われた。
 - ・アフガニスタン情勢を含む、地域的な議題について具体的な意見交換が行なわれた。
 - ・「ア」における恒久的な平和の達成及び経済復興に関して緊密に協力する重要性が指摘された。
- (7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とジャイシャンカル印外相との会談

- ・(7月16日の)タシケントの国際会議の-marginで、ミルジヨーエフ大統領は、ジャイシャンカル印外相と会談を行った。
 - ・同大統領は、首脳レベルにおける定期的な接触の中で達成された合意に沿った、両国の戦略的パートナーシップ及び多面的協力の関係の前向きな発展を満足の意をもって指摘した。
 - ・同外相は、モディ印首相の温かい挨拶と祝意を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・中央アジアと南アジア間の相互連結性、並びにアフガニスタンにおける平和の達成及び同国の経済復興を目的とした地域プロジェクトの推進に関する「ウ」の取組が高く評価された。
 - ・会談の中で、投資、イノベーション、貿易、ビジネス、物流、IT、保健及びその他の優先分野における二国間プロジェクトを、両国の地域を積極的に巻き込んで推進する重要性が強調された。
 - ・「印-中央アジア」フォーマットにおける生産的な対話を継続することに関心が示された。
- (7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とモメン・バングラデシュ外相との会談

- ・(7月16日)タシケントにおける国際会議の枠組で、ミルジヨーエフ大統領は、モメン・バングラデシュ外相と会談を行った。
 - ・二国間協力の発展及び地域的な議題について意見交換が行われた。
 - ・同外相は、ハーミド・バングラデシュ大統領及びハシナ・バングラデシュ首相の心からの挨拶を「ミ」大統領に伝達した。
 - ・中央アジア地域と南アジア地域の相互連結性の発展に関する「ミ」大統領のイニシアティブに対する断固とした支持が確認された。
 - ・交流の活発化、貿易・経済及び文化・人的交流分野における共同プロジェクト及びプログラムの推進を通じた、実務的な協力の増大に特に注意が払われた。
- (7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とファイサル・サウジアラビア外相との会談

- ・7月16日、タシケントの国際会議の枠組で、ミルジヨーエフ大統領は、ファイサル・サウジアラビア外相と会談を行った。

- ・「ミ」大統領は、対話の活発化、及び特にエネルギー分野における初の大規模投資プロジェクトの推進といった、二国間関係のダイナミックな発展が見られたことを満足の意をもって指摘した。
- ・同外相は、サルマン・「サ」国王の心からの挨拶及び祝意を「ミ」大統領に伝達するとともに、「サ」を公式訪問するよう改めて同国王による招待を行った。
- ・中央アジアと南アジアの地域の相互連結性の強化に関する「ミ」大統領の時宜に合った重要な国際的イニシアティブ及びアフガニスタン情勢の平和的解決に向けて行われている全面的支援を「サ」側が高く評価し支持している旨強調された。
- ・会談の中で、来るべき首脳レベルにおけるやりとりの議題を具体的な内容で満たし、両国関係を質的に新たな段階に引き上げるために、実務的な協力の拡大の展望、イベント及び新プロジェクトの準備が議論された。

(7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とアフマド・ナーセル・クウェート外相兼内閣担当国務大臣との会談

- ・本日(7月16日)、ミルジヨーエフ大統領は、タシケントの国際会議に参加しているアフマド・ナーセル・クウェート外相兼内閣担当国務大臣と会談を行った。
- ・「ミ」大統領は、二国間の伝統的な友好関係をさらに発展させる重要性を特に指摘した。同外相の今次訪問が、(両国の)接触及び交流の活発化に寄与するとの確信が表明された。
- ・同外相は、ナッワフ・「ク」首長からの温かい挨拶及び祝意を「ミ」大統領に伝達するとともに、中央アジア地域と南アジア地域との相互連結性の強化に関する取組に対する固い支持を表明した。
- ・会談の中で、特に貿易、投資、イノベーション、金融、食料安全保障、IT、教育及びその他の分野における実務的な協力を拡大する展望について議論された。
- ・二国間の政府間委員会次回会合の実施及び外交関係樹立30周年の枠内でのイベントの共同プログラムの準備について合意に達した。
- ・国際的及び地域的な議題の喫緊の側面について建設的な意見交換が行われた。

(7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とアルガエロヴァ国連事務次長兼国連欧州経済委員会(UNECE)事務局長との会談

- ・(7月16日)ミルジヨーエフ大統領は、タシケントの国際会議に出席しているアルガエロヴァ国連事務次長兼国連欧州経済委員会(UNECE)事務局長と会談を行った。
- ・「ミ」大統領は、近年質的に新たなレベルに引き上がった、国連機関とのパートナーシップのダイナミックな発展を満足の意をもって指摘した。「ウ」における改革を推進する国連の支援に対して謝意が表明された。
- ・同事務次長は、グレーテス国連事務総長の温かい挨拶及び支援の言葉を「ミ」大統領に伝達した。
- ・国際場裡における「ウ」の高まりつつある権威、中央アジア地域と南アジア地域の相互連結性の強化を含む、「ミ」大統領のイニシアティブに対する国際社会による幅広い支持が強調された。
- ・同事務次長は、アラル海地域を環境イノベーション・技術ゾーンとする国連総会決議が採択されたこと及び「ウ」が中央アジア経済のための国連特別プログラム(SPECA)の議長国を務めることを歓迎

迎した。

・会談の中で、経済、貿易及び運輸、イノベーション、環境及びその他の分野等におけるSDGsの達成及びパンデミックの結果の克服に関する「ウ」とUNICEFの間の互恵的協力の拡大の展望が議論された。

(7月16日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とボレル欧州連合（EU）外務・安全保障政策上級代表兼欧州委員会副委員長との会談他

・ミルジヨーエフ大統領とボレル欧州連合（EU）外務・安全保障政策上級代表兼欧州委員会副委員長との会談（大統領府ウェブサイト）

(1) 本日（7月16日）開催されている国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」の枠内で、ミルジヨーエフ大統領は、ボレル欧州連合（EU）外務・安全保障政策上級代表兼欧州委員会副委員長と会談を行った。

(2) ウズベキスタン・欧州の多面的協力の焦眉の問題が議論された。

(3) 同上級代表は、ミシェル欧州理事会議長及びフォン・デア・ライエン欧州委員会委員長の挨拶を同大統領に伝達した。同代表は、中央アジアと南アジアの相互連結性の発展に関する同大統領のグローバルなイニシアティブの重要性及びそれが時宜にかなっていることを強調した。

(4) 会談の中で、近年見られる「ウ」とEUとの間のパートナーシップのダイナミックな発展が満足の意をもって指摘された。特に人的側面及び民主的変革、ビジネス、投資及びイノベーションの推進、「グリーン発展」、環境、文化交流及びその他の分野における多面的協力をさらに拡大する重要性が強調された。「ウ」とEUの間の拡大パートナーシップ及び協力に関する新たな協定に関する交渉が完了しつつある旨指摘された。

(5) 国際的な議題に関して詳細な意見交換が行われた。アフガニスタンにおける（情勢の）平和的解決の支援に特に注意が払われた。

(7月16日付大統領府ウェブサイト)

2 ウズベキスタン・EU外相会談（外務省ウェブサイト）

(1) 7月17日、カミーロフ外相はボレルEU外務・安全保障政策上級代表と会談を行った。

(2) EU側は、タシケント市において今年7月15～16日に行われた国際ハイレベル会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」の結果を高く評価した。ボレル上級代表は、南アジアと中央アジア間の貿易・経済関係の活発化及び地域の安定確保において、当該フォーラムが時宜にかなった喫緊のものである旨指摘した。

(3) 会談の中で、ウズベキスタンとEUの間の協力の喫緊の問題について議論された。様々なレベルでの来たるべき合同行事の実務的な側面に関する意見交換が行われた。

(4) アフガニスタンの文脈における双方の連携に個別の注意が払われた。アフガニスタンにおける和平プロセスの維持、アフガニスタンの経済復興、インフラプロジェクトの実現に対して引き続き協力する用意が表明された。

(5) 会談において、互いに関心があるその他の問題も検討された。

(6) 会談にはサイドフ下院第一副議長も参加した。

(7月17日付外務省ウェブサイト)

●ウズベキスタン・タジキスタン首脳電話会談

- ・7月24日、ミルジヨーエフ大統領とラフモン・タジキスタン大統領の電話会談が行われた。
- ・会談冒頭、「ラ」大統領は、ウズベキスタンの多民族からなる国民に対して平和、安寧及び繁栄を願い、「ミ」大統領の誕生日を心から祝福した。
- ・本年6月10日～11日の「ミ」大統領のタジキスタン公式訪問の結果採択された協定及び合意の実務的な実施が検討された。
- ・アフガニスタン方面における状況の進展を含む、地域的な議題について意見交換が行われた。
- ・先週(7月15日～16日)に開催された中央・南アジア地域の相互連結性に関する国際会議の良い結果が高く評価された。
- ・トルクメニスタンにおける来月初めの次回中央アジア諸国首脳協議会合及び「タ」における本年9月の上海協力機構(SCO)首脳会合の開催の準備について議論された。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・トルクメニスタン首脳電話会談

- ・7月24日、ミルジヨーエフ大統領とベルディムハメドフ・トルクメニスタン大統領との間で電話会談が行われた。
- ・「ベ」大統領は、ウズベキスタンの兄弟民族に対して平和及び繁栄を心から願い、「ミ」大統領の誕生日を温かく祝福した。
- ・友好、善隣、及び戦略的パートナーシップの両国関係をさらに拡大するという喫緊の問題が検討された。
- ・特に貿易・経済、運輸・交通、及び文化・人的交流分野における、両国間の多面的協力のダイナミックな発展が満足の意をもって指摘された。政府間合同委員会の次回会合の開催について合意に達した。
- ・両首脳は、本年8月6日に「アワザ」国立観光ゾーンで開催される中央アジア諸国首脳協議会合の準備について個別に言及した。来るべきイベントの議題及びプログラムについて意見交換が行われた。
- ・「ベ」大統領は、中央・南アジア地域の相互連結性の強化に関する国際ハイレベル会議が成功裏に開催されたことについて、「ミ」大統領に対して心から祝福した。当該フォーラムの実りある結果は、広範な地域における実務的な協力プロジェクトを促進するための好ましい基盤となる旨強調された。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・カザフスタン首脳電話会談

- ・7月24日、ミルジヨーエフ大統領とトカエフ・カザフスタン大統領の電話会談が行われた。
- ・「ト」大統領は、「ミ」大統領の誕生日を温かく祝福し、ウズベキスタンの兄弟民族に対して安寧及び繁栄を心から願った。
- ・両首脳は、多面的な協力のさらなる強化及び両国の戦略的パートナーシップ関係の強化、特に新たなプロジェクト及びプログラムにより関係を満たすことの重要性を指摘した。
- ・8月初めのトルクメニスタンにおける中央アジア諸国首脳協議会合を含む、来たるべき首脳レベルの

二国間及び多国間イベントの準備のスケジュールも検討された。

・中央・南アジア地域の相互連結性に関するタシケントの国際会議の実りある結果が高く評価された。アフガニスタン情勢について意見交換が行われた。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とナザルバエフ・カザフスタン初代大統領との電話会談

・7月24日、ミルジヨーエフ大統領とナザルバエフ・カザフスタン初代大統領（エルバシ）の電話会談が行われた。

・会談冒頭、「ナ」初代大統領は、ウズベキスタンの兄弟国民に対して平和、安寧及び進歩を心から願い、「ミ」大統領の誕生日を温かく祝福した。

・両国の戦略的パートナーシップ及び全面的協力の関係のさらなる発展の喫緊の問題が議論された。優先的な協力分野に関する共同プロジェクト及びプログラムを引き続き実施する重要性が強調された。

・地域的な議題について意見交換が行われた。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・キルギス首脳電話会談

・7月24日、ミルジヨーエフ大統領はジャパロフ・キルギス大統領と電話会談を行った。

・「ジャ」大統領は、ウズベキスタンの兄弟民族に対して安寧及び繁栄を心から願い、「ミ」大統領の誕生日を心から祝福した。

・二国間の議題及び地域協力の喫緊の問題が議論された。

・本年3月11日～12日のタシケント市における両国首脳会談の中で達成された合意を実務的に遂行する重要性が強調された。エネルギー、運輸、機械工学、製薬、及びその他の分野における共同プロジェクトの迅速な推進に特に注意が払われた。

・先般の中央アジア及び南アジアの相互連結性の強化に関する国際会議が中央アジア地域における安全、安定及び持続可能な開発の確保に重要な役割を果たしたことが指摘された。

・8月6日のトルクメニスタンにおける中央アジア諸国首脳協議会合の開催を含む、来たるべき行事日程も検討された。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・トルコ首脳電話会談

・7月24日、ミルジヨーエフ大統領は、エルドアン・トルコ大統領と電話会談を行った。

・「エ」大統領は、健康及び大きな成功、並びにウズベキスタンの多民族からなる国民に対して安寧及び繁栄を心から願い、「ミ」大統領の誕生日を温かく祝福した。

・二国間の議題の喫緊の問題について詳細な意見交換が行われた。

・両国の多面的協力のダイナミックな発展に寄与している近年見られる活発な相互のやりとり及び交流が満足の意をもって指摘された。パンデミックの影響にもかかわらず、本年初めからの貿易量はほぼ二倍になり、230社以上の新たな合併企業が設立され、重要な文化・人的交流プログラムが実施されている。

・両首脳は、来たるべきイベントのスケジュールを検討し、本年末までの「ウ」における首脳レベルの第2回戦略的協力評議会会合の実施に向けた徹底的な準備の重要性を強調した。

・アフガニスタン情勢の激化の文脈等において、地域パートナーシップの実務的な側面も議論された。

・中央・南アジア地域の相互連結性の強化に関するタシセントにおける国際会議の結果が高く評価された。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

●ウズベキスタン・露首脳電話会談

・7月24日、ミルジヨーエフ大統領は、プーチン露大統領と電話会談を行った。

・会談冒頭、「プ」大統領は、ウズベキスタン国民に対して平和、安寧、更なる繁栄を心から願い、「ミ」大統領の誕生日を温かく祝福した。

・両国の戦略的協力及び同盟関係の喫緊の問題が検討された。首脳レベルにおける行事日程が議論された。

・両国間の多面的協力に見られる発展のダイナミクス、特に二国間貿易の安定的な成長、経済及び文化・人的交流プログラム分野における共同の協力プロジェクトの成功裏な実施が満足の意をもって指摘された。「ウ」における新型コロナウイルスワクチンの共同生産を一刻も早く開始する重要性が強調された。

・両首脳は、アフガニスタン方面の現状を含む、地域的な議題について意見交換を行った。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

●ミルジヨーエフ大統領とマトヴィエンコ露上院議長との電話会談

・7月24日、ミルジヨーエフ大統領は、マトヴィエンコ露上院議長と電話会談を行った。

・「マ」議長は、健康、安寧、ウズベキスタンの多民族からなる国民の幸福及び繁栄のための活動における成功を心から願い、「ミ」大統領の誕生日を温かく祝福した。

・両国の戦略的パートナーシップ及び同盟関係のさらなる発展及び強化が検討された。両国間の多面的協力の共同プロジェクトの推進に寄与する活発な議会間交流が満足の意をもって指摘された。

・議会間連盟及びC I S議会間総会の枠組における緊密かつ建設的な対話を継続する重要性が強調された。

(7月24日付大統領府ウェブサイト)

【外政】

●駐日ウズベキスタン大使の任命

・ウズベキスタン共和国最高議会上院評議会決定により、アブドゥラフモーノフ・ムフシンフジャ・トゥルスンフジャーエヴィチが駐日ウズベキスタン共和国特命全権大使に任命された。

・アブドゥラフモーノフ氏は1974年にフェルガナ州において生まれた。

カルフォルニア州立大学チコ校（米国）及び小樽商科大学（日本）の卒業生。

2004年～2008年 北海道大学（日本）博士号取得（ママ）（注：同人は2001年～2004年にかけて北海道大学経済学研究科博士課程に在籍。博士号取得。）

2004年～2006年 「コカ・コーラ・ボトラーズ・ウズベキスタン」社マネージャー

2006年～2008年 北海道大学助教
2008年～2018年 「エムトラスト」社（日本）最高責任者
2018年～2021年 フェルガナ州副知事兼投資・対外貿易局長
2021年～大使任命 ウズベキスタン外務省局長
露語、タジキスタン語、英語、日本語、アラビアを解する。
既婚。4児の父。
(7月9日付外務省ウェブサイト)

●ウズベキスタン・露外相電話会談

- ・7月9日、カミーロフ外相はラヴロフ露外相と電話会談を行った。
 - ・会談の中で、二国間協力について議論された。また、アフガニスタン情勢を含む、地域安全保障に関しても意見交換が行われた。
 - ・国際ハイレベル会合「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」（7月15日～16日、於タシケント）への露側の参加について個別の注意が払われた。
- (7月9日付外務省ウェブサイト)

●アフガニスタン情勢に関する CSTO 及びウズベキスタンの立場に関するアサードフ大統領報道官の発言

- ・ウズベキスタンは、アフガニスタン情勢に関連した何らかの提案を CSTO 加盟国から受け取っていない。12日のブリーフにおいてアサードフ大統領報道官がこれについて述べた。
 - ・同報道官は、アフガニスタン北部において起こっている出来事に関する CSTO の立場の変化について情報提供されていないと述べた。
 - ・同報道官は「そこには全く変化はなかった。概して、2012年に採択された対外政策活動構想及び『防衛に関する』法律によると、皆さんよくご承知のとおり、ウズベキスタンの領土における何らかの外国の軍事基地の配置は容認されておらず、我々は何らかの軍事的・政治的なブロックに加わることもできない」と想起した。
 - ・同報道官は、7月3日以降、アフガニスタンの軍人及び「武装者」がウズベキスタン越境を数回試みた旨付言した。その総数は150人に達した。
 - ・同報道官は「すべての調査措置の実施後、国際的な法に従って彼らは祖国に送還された。現在、ウズベキスタンの領土には、不法滞在となり得るアフガニスタン国籍の者は一人もいない」と述べた。
 - ・同報道官は、「我々の国境の不可侵に疑問を抱いてはならず、我々は彼らの不法な越境を容認しない」と強調した。
 - ・同報道官は、現在起こっている衝突がアフガニスタンの内政事項である旨想起した。同報道官は「我々はこれに干渉しないことを支持する者である」と結論づけた。
- (7月12日付 Gazeta)

●カミーロフ外相とパキスタン、アフガニスタン、印外相との会談

- ・7月13日、SCO定例外相会合に出席するためにドゥシャンベ市に到着したカミーロフ外相は、ク

レーシー・パキスタン外相、アトマル・アフガニスタン外相、ジャイシャンカル印外相とそれぞれ会談を行った。

・会談の中で、政治、貿易・経済、文化・人的交流分野における該当国との協力の重要な側面が議論された。国際的及び地域的な問題に関して意見交換が行われた。SCOを含む、多国間機構の枠組における協力のさらなる発展の展望が検討された。

・7月15日～16日にタシケントで開催される、来るべき国際ハイレベル会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」に特に注意が払われた。

・会談の中で、当該会議が時宜を得た重要な国際フォーラムであり、南アジアと中央アジアとの間の貿易・経済協力の活発化を促進するだけでなく、地域の安定の確保に効果的に寄与することが指摘された。

(7月14日付外務省ウェブサイト)

●カミーロフ外相による上海協力機構（SCO）外相会合出席

・上海協力機構（SCO）定例外相会合

(1) 7月13日～14日、カミーロフ外相率いるウズベキスタン代表団が、ドゥシャンベ市で開催された上海協力機構（SCO）定例外相会合に出席した。

(2) 印、カザフスタン、中国、キルギス、パキスタン、露、タジキスタン、「ウ」の外相は、SCO事務局長及びSCO地域反テロ機構執行委員長の参加を得て、来るべきSCO記念首脳会合の準備状況を議論した。

(3) 外相らは、SCO首脳会合の中で署名されることが提案された議題案及び文書の草案を検討した。

(4) 特に、過去20年間で、SCOが権威ある国際機構に変容し、現代の国家間関係システムの強化に然るべく関与していることが指摘された。

(5) SCO地域反テロ機構を含む、SCOの活動のさらなる拡大及び発展について意見交換が行われた。

(6) 国際的及び地域的性格の喫緊の問題も議論された。

・SCO外相評議会とラフモン・タジキスタン大統領との会談

(1) 各国外相は、ラフモン・タジキスタン大統領とも会談を行った。

(2) 会談において、本年9月のドゥシャンベにおけるSCO首脳会合の結果、SCO議長国が「ウ」に引き継がれることに関連して、カミーロフ外相がSCO外相評議会を代表して発言した。

(3) 同外相は、「タ」がSCO議長国期間に行った実りある活動を高く評価した。

(4) 同外相は発言の中で、協力の発展及び強化の重要な側面、SCO加盟国の多国間及び二国間形式での協力及びパートナーシップの過程で達成された大きな前向きな進展を指摘した。

(7月14日付外務省ウェブサイト)

●カミーロフ外相による「上海協力機構（SCO）－アフガニスタン」SCOコンタクトグループ会合出席

・7月14日、上海協力機構（SCO）定例外相会合に出席するためドゥシャンベ市を訪問したカミーロフ外相は、「SCO－アフガニスタン」SCOコンタクトグループ会合に出席した。

・「ア」及びSCO加盟国の外相、SCO事務局長、SCO地域反テロ機構執行委員長は、「ア」方面

における当事国の共同行動の側面、包括的な和平プロセスの進展を支援する措置、「ア」を安定的発展及び経済復興の軌道への復帰について議論した。

- ・「カ」外相は発言の中で、「ア」問題に関連する主要な問題について「ウ」の立場を表明した。
- ・指摘されたとおり、「ウ」は独立した主権国家としての「ア」の形成に関心を有している。「ウ」は、「ア」に対して善隣、相互尊重、平等の原則に基づく友好的政策を行っている。
- ・「ア」における政治プロセスは「ア」人自身によって、また「ア」国民のリーダーシップの下のみで実行されるべきであるという基本原則に「ウ」が引き続きコミットしていることが強調された。
- ・会合の結果、SCO加盟国外相の共同声明が採択された。

(7月14日付外務省ウェブサイト)

●中央アジア非公式外相会合

- ・7月14日、タシケント市で開催された国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」の枠組で、中央アジア諸国非公式外相会合が開催された。
- ・同会合には、トレウベルディ・カザフスタン副首相兼外相、ムフリッディン・タジキスタン外相、メレドフ・トルクメニスタン副首相兼外相、カミーロフ外相、ニヤザリエフ・キルギス第一外務次官が出席した。
- ・出席者らは、国家首脳の討議に付される共同文書草案を含む、トルクメニスタンで開催される次回の中央アジア諸国首脳協議会合の準備に関連する問題を議論した。

(7月14日付外務省ウェブサイト)

●国際会議「中央・南アジア地域に係る相互連結性の挑戦と可能性」に関する藤山美典駐ウズベキスタン共和国日本国特命全権大使のインタビュー

- ・今回、各国からハイレベルの出席を得て国際会議「中央・南アジア地域に係る相互連結性の挑戦と可能性」が開催されることを心からお祝い申し上げます。
- ・日本政府は、ミルジヨーエフ大統領による地域連結性の強化に向けたイニシアティブを力強く支持しているという点を強調したい。中央アジア諸国は、古来シルクロードの要衝に位置し、様々な文明の交差点としてモノやヒトを結び付けてきた地域であり、現代でも地政学的に重要な地域である。この地域の連結性が強化されることは、域内経済の持続的発展のみならず、国際社会の安定と繁栄のために非常に重要である。その意味で、今回の会議は大変重要な意義を有する。
- ・地域連結性の向上は、輸送力の強化のためのインフラ整備、モノやヒトの越境手続の円滑化など、様々な取組を効率的かつ有機的に進めることによって達成されるものである。国境をまたいで「つなぐ」と同時に、移動・輸送を適切に「管理する」という視点から、日本は、ウズベキスタン南部の鉄道整備の支援を行うとともに、税関に検査機材を供与しつつ、UNODCと協力して中央アジア諸国の国境に連絡事務所を設置した。
- ・また、もう一つのカギとなるのは「人」の育成であり、長年日本は貢献している。若い行政官に対する奨学金の支援を継続し、これまでに中央アジアの若い行政官668人が日本に留学した。日本のJICA、財務省、法務省、名古屋大学等が、連結性向上のために重要な税関分野など幅広い分野で研修を実施した。こうした人材育成により、効率的な行政が確保され、良好なビジネス環境の整備につながる

ものと確信している。

・さらに、日本は2004年に他国に先駆ける形で「中央アジア+日本」対話を立ち上げ、域内協力を後押ししてきた。この枠組みにおけるウズベキスタンの積極的な貢献を高く評価している。最近行われた外相会合では、アフガニスタンからの参加も得て、国境管理を含む地域協力について意見交換をしている。

・このように、日本は様々な分野において地域の連結性を高める取組みをしてきている。16日に行われる会議では、中央アジアの諸国が、現代における文明の十字路口として、多くのパートナーとの協力の下、自由で、開かれ、安定した地域として更に発展していくことが証明されることを期待している。会議のご成功を祈念する。

(7月15日付 DUNYO)

●「中央アジア+米(C5+1)」会合の実施

・「中央アジア+米(C5+1)」(外務省ウェブサイト)

(1) 7月15日、タシケントにおける国際ハイレベル会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と課題」の枠内で「C5+1」(「中央アジア+米」)の会合が行われた。

(2) 中央アジア諸国の代表団は、トレウベルディ・カザフスタン外相、ムフリディン・タジキスタン外相、メレドフ・トルクメニスタン副首相兼外相、カミーロフ外相、ニヤザリエフ・キルギス外務省第一次官が団長を務めた。米側はエリザベス・シャーウッド・ランドール国土安全保障担当大統領補佐官が出席した。

(3) 各国は「C5+1」フォーマットの枠内における協力の焦点の側面について議論し、国際政治及び地域安全保障について意見交換を行った。

・カミーロフ外相の発言(Gazeta)

(1) この形式(当館注:C5+1)は経済、エネルギー及び貿易における連結性の向上、環境上の課題及び健康分野における課題の影響低下、安全上の脅威に対する共同での解決に寄与した。

(2) ウズベキスタンはC5+1のパートナーシップの発展を引き続き強く支持する。我々は地域のパートナーシップを今後も推進する用意がある。

(3) 我々は、中央アジア諸国の独立、主権及び領土一体性を支持する米の立場を高く評価する。

(7月15日付外務省ウェブサイト及びGazeta)

●ウズベキスタン・中国外相会談

・7月15日、カミーロフ外相は、国際会議「中央・南アジアの相互連結性に係る挑戦と可能性」に出席するためにタシケント市を公式訪問した王毅・中国国務委員兼外交部長と会談した。

・両外相は、両国の全面的な戦略的パートナーシップの現状及びさらなる深化の展望について議論した。

・会談の結果、両外相は、2021年~2022年の両国外務省間の協力プログラムに署名した。

(7月15日付外務省ウェブサイト)

●アフガニスタンに関する四者協議フォーマットの創設に関する報道発表

・2021年7月15日、タシケントにおいて、米、ウズベキスタン、アフガニスタン及びパキスタン

の代表は、新たな四者協議の場の創設に関する決定を行った。

・四者は、タシケントにおける国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」の実施が時宜にかなっており喫緊のものであることを指摘しつつ、地域の相互連結性はアフガニスタン及び地域における長期的な平和の確立及び安定にとり重要であると考え、平和及び地域の相互連結性は互いに強化し合う要素である旨合意した。

・当該声明全文の内容は次のとおり。

2021年7月15日付アフガニスタンの和平プロセスの支援及び紛争後の処理のための米・ウズベキスタン・アフガニスタン・パキスタンの四者フォーマットの宣言

「米、ウズベキスタン、アフガニスタン及びパキスタンの代表は、地域の相互連結性の拡大に向けられた新たな四者外交プラットフォームを創設することに合意した。

四者は、アフガニスタンにおける長期的な平和及び安定は地域の相互連結性にとり決定的な意味を有すると考え、平和及び地域のつながりは互いに強化し合うという共通の考えを表明する。

四者は、効果的な国際的な貿易ルートのさらなる発展の歴史的な可能性を認めつつ、貿易の拡大、輸送ルートの建設及びビジネス関係の強化のために協力することを期待する。

四者は、互いのコンセンサスの下、当該協力の条件を決定するために今後数か月のうちに会談することに合意した」

(7月16日付外務省ウェブサイト)

●当地報道サイト「Kun.uz」によるイルガーシェフ・アフガニスタン担当大統領特別代表に対する国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」等に関するインタビュー

・国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」の主目的

(質問) 先日、国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」が開催された。同会議の主な目的は何であったか。

(回答)

(1) (会議が高い水準で実施され、外国及び国際機関からのハイレベルな参加があったことについて触れ、グローバルな支持を得られた旨述べた後で、) 中央アジア及び南アジアは古くから相互に連結した地域であった。残念ながら、現代の様々なグローバルな問題、特にアフガニスタンでの様々な「政治ゲーム」の結果として内戦が激しくなり、両地域間の古代からの関係が切断され、相互不信及び無関心の雰囲気を作りだされた。

(2) ミルジヨーエフ大統領は、相互連結性の復活、両地域の潜在力の開花、アフガニスタンにおける平和の着実な確立を目的とした歴史的意義のある構想を提唱した。同構想は以下の高い目標を具現化するものである。

ア 第一に、アフガニスタンに安定的平和を確立するための地域内及び国際場裡における共通のアプローチの形成。

イ 第二に、中央アジア及び南アジア地域間に位置するアフガニスタンの地理的位置をその社会・経済発展の要因とすること。

ウ 第三に、地域における相互信頼のムードの復活を通じ、アフガニスタン及びパキスタンの運輸・輸送能力及びポテンシャルの照準を地域発展に向けること。

エ 第四に、地域の貿易・経済関係システムへのアフガニスタンの積極的な関与の確保。

(3) 「ミ」大統領によって推進された「テルメズーマザーリシャリーフーカブルーペシャワール」鉄道建設のイニシアティブの実施により、アフガニスタンの対外貿易額は50%の増加が確保され、この輸送によりアフガニスタンに年間4億～5億米ドルの利益がもたらされる。

(4) この国境を跨いだトランス・アフガン鉄道の開通により、中央アジア及び南アジア諸国の経済発展のための基盤が創出される。

(5) 今日、アフガニスタンは同国の重要な歴史的転換点に差し掛かっている。同時に、タシケントの国際会議の後、長期に亘って膠着していた紛争当事者の和平交渉がドーハ市で開始されたことは象徴的な意味を有している。

・米軍撤兵後のアフガニスタン情勢

(質問) 米軍撤兵後、アフガニスタンはどうなるか。多くのウズベキスタンの同胞がアフガニスタン情勢を懸念している。

(回答)

(1) 「ウ」は地域の他国と同様に、重い責任及び責務に基づき、またアフガニスタンの和平プロセスの速度に比例して、アフガニスタンから外国の軍隊が撤兵することを支持する。(中略)

(2) 米軍撤兵後のアフガニスタン北部情勢の悪化は、同国における全国民による和解の達成がいかに必要かを示している。この目標を達成するために、カタル政府の直接的支援を受け、ドーハにおいて紛争当事者の直接交渉が行われている。まず、この交渉が交戦当事者間の完全な停戦及び国全体の和平協定の署名につながることを望んでいる。(中略)

(3) 私は以下のことを強調したい。

ア 第一に、国民の合意に代わる道は存在しない。

イ 第二に、外国軍の支援の下でのアフガニスタンの現状維持は不可能。

ウ 第三に、アフガニスタンにおける全ての政党及び軍隊は同国民の将来のために団結しなければならない。

エ 第四に、2020年9月12日に開始されたアフガニスタン政府とタリバーンとの間のアフガニスタン人同士の和平プロセスに同国の全ての政治グループを関与させなければならない。

(4) 紛争当事者が、同国の民族多様性を認め、和平交渉において相互に建設的な歩み寄りを行う用意をすることが重要である。和平に向けた政治プロセスに同国の様々な民族の代表を関与させることは、同国の最終的な平和の達成に寄与する。アフガニスタンの領土から外国軍が撤退した後、同国が様々なテロ組織にとっての避難場所及び第三国にとっての脅威とならないことが極めて重要である。

(5) まとめれば、アフガニスタン政府は、全ての国内の民族・政治勢力と団結して、同国民全体の和解の達成及びアフガニスタン国民が長年待ち望んでいた平和を達成するために協力しなければならない。

・アフガニスタンの政情不安が近隣諸国に拡散するリスクに対する評価

(質問) タリバーンは、中央アジアに干渉しないと繰り返し述べている。カミーロフ外相も、最近、米国のジャーナリストによるインタビューにおいて、タリバーンはアフガニスタン国外でテロを行ったことがない旨述べた。しかし、タシケントにおける国際会議において、ラヴロフ露外相は、アフガニスタンの政情不安が近隣諸国に拡散するリスクを強調した。このリスクをどのように評価するか。

(回答)

(1) 「ミ」大統領が、2018年にタシケントで開催されたアフガニスタンの平和に関するハイレベル会議で強調したように、アフガニスタンの安全は、「ウ」の安全でもあり、広大な中央アジア及び南アジア地域の安定及び発展の基盤である。

(2) このことから言えることは、「ミ」大統領のアフガニスタン政策は、同国の平和だけでなく共通の家である中央アジア地域の安全の確保、あらゆる形態のテロ、原理主義、暴力のない平和のために闘うことを目的としている。

(3) 我々はアフガニスタンにおける平和の確立に必要な基本原則に引き続きコミットする。つまり、同国の安定的平和の確立のために必要な政治プロセスは、同国民により、同国民のリーダーシップの下でのみ実施されなければならない。

(4) また、アフガニスタンを地政学的利益の紛争地にしてはならない。この観点から、米中露の「トリニティ」の形成及びパキスタンのそれへの参加は特に重要である。それは、これらの国々がアフガニスタン問題に関して一致することが非常に重要だからである。同時に、アフガニスタン問題においてはイランの立場も考慮しなければならないと考えている。

(5) また、地域の全ての国が、アフガニスタン情勢について一致した評価を行い、既存の問題の解決及び発生する脅威に関する共通見解を持つ必要がある。地域の国々が、個別にだけでなく、互いのコンセンサスを得て共同で問題を解決するのであれば、アフガニスタンに安定的平和を確立するための基盤が作られる。

(6) もちろん、我々はアフガニスタンにおける政情不安を心配しており、その悪影響を予防するための必要な措置が講じられている。しかし同時に、タリバーンの指導者らは我々との対話において、彼らが同国の自由のためにのみ戦っており、「ウ」を含む近隣諸国の国境を侵犯せず、アフガニスタンの領土を通じて「ウ」にいかなる脅威も与えないことを繰り返し強調していることを指摘したい。

(7) 我々の古代からの隣人であるアフガニスタンとの善隣関係を常に維持し、兄弟の絆をさらに強化できると信じている。

・ウズベキスタンによるアフガニスタン難民受け入れの可能性

(質問) アフガニスタンからウズベキスタンへの難民は祖国に送還されている。米国のために働いていた彼らは現在、危険にさらされているが、彼らの処遇は議論されているか。「ウ」が彼らを保護する可能性はあるのか。

(回答)

(1) (本問題がウズベキスタンにとり重大な問題であり、解決には時間を要する旨述べた上で) 「ウ」は、1951年の難民の地位に関する条約及び1967年の難民の地位に関する議定書に加盟せず、さらに、「ウ」の法律においても難民の地位取得に関する手続きが規定されていないことはご案内のとおりである。したがって、米国のために働いていたアフガニスタン国民を「ウ」国内に避難させる法的及び実務的根拠は存在しない。

(2) 最近、タリバーンは、外国と協力したアフガニスタン国民に恩赦を与え、同国民に心から奉仕する意思があるのであれば、彼らの自由を約束する旨声明を出した。

(3) ご承知のとおり、難民問題におけるリーダーシップ及び調整の役割を直接担っているのは国連である。国連の要請があれば、「ウ」国境地域への国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の代表部の

開設及びアフガニスタン難民の支援活動の問題を前向きに検討する可能性がある。

・米、ウズベキスタン、アフガニスタン、パキスタンの四者協議フォーマットの役割

（質問）今般の国際会議において、米、ウズベキスタン、アフガニスタン、パキスタンの四者による新たな政治フォーマットが立ち上げられた。同フォーマットは、主にアフガニスタン人同士の包括的対話の開始に関与するか。

（回答）

（１）国際会議の枠内で、米のイニシアティブによる四者フォーマットの創設に関する声明が拡散された。本件は、突然及び自然に発生したものではないことを強調したい。昨年半ば、ハリルザード米アフガニスタン和平特別代表及びボーラー米国際開発金融公社（DFC）CEOがタシケントを訪問した際、「ウ」及びアフガニスタンが参画して実施するプロジェクトの資金調達の問題も検討された。（当時の会談において、ウズベキスタンのイニシアティブによるアフガンにおけるエネルギー・運輸プロジェクトがアフガンの和平に極めて重要と米から強調された旨述べた後で、）その後、中央・南アジア地域の相互連結性を確保するプロジェクトの実施を目的とした新たなフォーマットの立ち上げ等に関する、当事国間による交渉及び意見交換が行われた。

（２）一部の人は、この新たなフォーマットは、アフガニスタン人同士の包括的対話にのみ寄与すると言う。しかし、これは少々浅はかな結論である。なぜなら、当該フォーマットの主要な目的の一つは、地域の相互連結性の拡大であるからだ。同時に、米、「ウ」、アフガニスタン及び「パ」の代表は、地域間関係の発展がアフガニスタンにおける恒久的な平和及び安定を確立するために非常に重要であると認めた。換言すれば、平和及び地域の相互連結性は、相互に強化し合う要素である。

（３）近いうちに、当事国の代表が集まり、四者フォーマットの枠組における将来の協力の優先分野について合意する予定である。当該フォーマットの創設は、今般の権威ある国際会議の実務的な成果の一つになったと思う。

・中央・南アジアの地域連結性を強化する上でのアフガニスタンの重要性

（質問）ミルジヨーエフ大統領は、アフガニスタンが、中央・南アジアの相互連結性を確保する上での重要な結合点である旨強調した。これに関し、どのように考えるか。

（回答）

（１）今般の国際会議は、中央・南アジア地域間の歴史的紐帯の復活、当事国間の不信感を解消する重要な一歩となったことをまず指摘すべきである。そして、「ミ」大統領は、自身のスピーチにおいて同分野における有望なコンセプトを提唱した。

（２）当該会議では、「ウ」が実施することを想定したアフガニスタンにおけるエネルギー及び運輸・交通分野のプロジェクトに焦点が当てられた。（中略）「ウ」はアフガニスタンと協力して、「スルハン－プリフムリ」送電線の建設及びトランス・アフガン回廊の建設などの重要なインフラプロジェクトを実施している。これらのプロジェクトの実施により、アフガニスタン国民のための多くの雇用が創出されるとともに、同国経済の発展の確固たる基盤が構築されると確信する。これらの目標は、アフガニスタンにおける恒久的な平和及び安寧が確立される場合にのみ達成可能である。

（３）要するに、ウズベキスタンはアフガニスタン問題の平和的解決に関する重要な外交プラットフォームであるとともに、地域の相互連結性のコンセプトを推進する原動力であることが当該会議によって再確認された。この観点から、現代の最重要議題に関する当該会議のイニシアティブは、時宜に適った

ものであった。

(7月22日付外務省ウェブサイト)

●藤山美典駐ウズベキスタン共和国日本国特命全権大使とイルガーシェフ・アフガニスタン問題大統領特別代表との会談

・7月30日、イルガーシェフ・アフガニスタン問題大統領特別代表は、藤山美典駐ウズベキスタン共和国日本国特命全権大使と会談を行った。

・日本側は、二国間関係の現在の水準を高く評価するとともに、地域間の相互連結性の強化に寄与する、国際会議「中央・南アジア地域の相互連結性に係る挑戦と可能性」(2021年7月15日～16日)が成功裏に実施されたことへの祝意を表明した。

・会談の中で、双方は、アフガニスタン方面における協力拡大のための両国の取組、特に「ア」において長期的かつ安定的平和を確立し、「ア」を地域統合プロセスに引き入れる相互協力について議論した。

・アフガニスタン情勢及び同国の政治的和平プロセスの促進についても詳細な意見交換が行われた。

(7月30日付外務省ウェブサイト)

●カミーロフ外相の訪韓結果

・鄭義溶(チョン・ウィヨン)韓国外交部長官との会談

(1)7月30日、カミーロフ外相は、ソウルにおいて、鄭義溶(チョン・ウィヨン)韓国外交部長官と会談を行った。

(2)会談の中で、両国間の多面的協力をさらに深化し拡大するための喫緊の問題が議論された。

(3)両外相は、首脳レベルにおける協議、特に本年1月のオンライン首脳会談の枠組において達成された合意の実施状況を検証した。

(4)様々なレベルにおける当面の共同のイベントの議題及びスケジュールについて意見交換が行われた。

(5)両外相は、貿易・経済及び投資の協力を強化するための提案を検討した。

(6)両外相は、教育分野において達成された成果を満足の意をもってテークノートした。ウズベキスタンには韓国の主要な5つの大学の分校があり、タシケント市、サマルカンド市、シャフリサブス市及びフェルガナ市で職業教育センターが運営されており、また韓国の経験が就学前教育の発展に活用されている。

(7)ハイテク、「グリーン」経済及びデジタル経済の分野における共同プロジェクトの実施に対する関心が表明された。

(8)国連、WTO及びその他の国際機関の枠組における両国の相互協力のいくつかの特定の側面が議論された。

(9)「カ」外相は、朝鮮半島情勢の平和的解決及び南北間の対話の再開に関する韓国の政策への「ウ」による変わらない支持を改めて確認した。

(10)一方、韓国側は、善隣友好の雰囲気強化、近隣諸国との互恵的協力及び中央アジア地域の統合プロセスの発展に関する「ウ」のイニシアティブを歓迎した。

(11)会談においては、一連の国際・地域情勢についても議論がなされた。

・ Sohn Hyuk-Sang 韓国国際協力団（K O I C A）総裁との会談

（１） 7月30日、ソウル市を実務訪問したカミーロフ外相は、Sohn Hyuk-Sang K O I C A 総裁と会談を行った。

（２） 双方は、「ウ」とK O I C Aの協力の現状及び展望について議論した。

（３） これまでの協力を通じて、K O I C Aが、「ウ」での社会・経済の重要プログラムの実施上の主要な国際パートナーの一つとなったことが強調された。「ウ」にK O I C A事務所が開設されて以来、32件以上（1億3,000万米ドル）のプロジェクトが実施され、2,000人以上の「ウ」人専門家の研修が韓国で行われ、570人以上のK O I C A ボランティア専門家が招聘された。

（４） 2019年4月に文韓国大統領が「ウ」を国賓として訪問した際に署名された、2020年～2022年の協力プログラムの枠組における共同プロジェクトについて意見交換が行われた。

（５） 教育及び保健分野における新プロジェクトの実施のための提案が検討された。

（６） 会談の終わりに、「カ」外相は、Sohn Hyuk-Sang 総裁を「ウ」訪問に招待した。

・ 朴炳錫（パク・ビョンソク）韓国国会議長との会談

（１） 7月31日、ソウル市を実務訪問中のカミーロフ外相は、朴炳錫（パク・ビョンソク）韓国国会議長と会談を行った。

（２） 会談において、議会外交の推進などを通じた、両国間の特別な戦略的パートナーシップをさらに拡大・強化することについて議論された。

（３） 朴議長は、本年4月に自身が「ウ」を訪問した際のミルジヨーエフ大統領との会談を非常に温かく想起した。

（４） 両国議会に設立された「友好議連」の本年6月のオンライン会議が実りあるものであったこと、また、同議連の活動を活発化させることの重要性が双方から指摘された。

（５） 韓国側は、近年「ウ」で実施されている「ウ」の生活のあらゆる分野を近代化するための大規模な改革を高く評価した。

（６） 2022年の両国の外交関係樹立30周年及び「ウ」における韓国ディアスポラ居住85周年という来たるべき歴史的な記念日を広く祝福することについて意見交換が行われた。

（７） 会談において、両国間のその他のテーマが議論された。

・ 潘基文（パン・ギムン）グローバル・グリーン成長研究所（G G G I）理事長との会談

（１） 7月31日、カミーロフ外相は、ソウル市において、潘基文（パン・ギムン）グローバル・グリーン成長研究所（G G G I）理事長（元国連事務総長）と会談を行った。

（２） 双方は、ウズベキスタンがC I S初のG G G I加盟国となったことを満足の意をもって強調した。タシケント市に中央アジア初のG G G I代表部が開設された。すでに10件以上の共同行事が実施されている。これに関連し、地球規模の気候変動の影響の緩和、「グリーン経済」テクノロジーの導入、再生可能エネルギー及び水素エネルギーの開発を含む一連の分野における「ウ」とG G G Iの協力のさらなる発展の展望が議論された。

（３） 会談においては、K O I C AとG G G Iとの間の560万米ドルのプロジェクトの枠組において、アラル海地域の生態学的、社会・経済及び人口動態学的状況を改善するための相互協力に特に注意が払われた。

（４） 双方は、アラル海地域を環境イノベーション及び技術ゾーンに宣言したミルジヨーエフ大統領の

イニシアティブによる国連総会の特別決議の採択を歓迎した。

・ Yeo Han Goo 新南北政策韓国大統領補佐官との会談

(1) 8月1日、ソウル市を実務訪問中のカミーロフ外相は、Yeo Han Goo 新南北政策韓国大統領補佐官と会談を行った。

(2) 双方は、政治、貿易・経済、投資、文化・人的交流及びその他の分野における二国間関係のダイナミックな性質、ほとんど全ての国際的及び地域的問題に関するアプローチ及び立場の類似性を満足の意をもって確認した。

(3) 韓国側は、ウズベキスタンが、ユーラシア空間における安全保障及び多面的協力の深化を目的とした「新北方政策」の枠内での中央アジア地域における韓国の重要なパートナーである旨指摘した。

(4) ハイテク、「グリーン」経済及びデジタル経済、ICT、教育、保健分野における共同プロジェクトの実現について意見交換が行われた。

(5) 会談の中で、相互に関心を有するその他の問題も議論された。

(7月31日及び8月2日付外務省ウェブサイト)

【内政】

●大統領選挙に出馬予定であったジャホンギール・アタジャーノフ氏が政治から身を引く旨発表

・ 本年初めに、(歌手としての)キャリアに終止符を打ち(本年10月24日に実施される)大統領選挙に出馬する予定であると表明していた著名な歌手であるジャホンギール・アタジャーノフ氏が政界からの引退を発表した。

・ 「ア」氏は、「自分(アタジャーノフ氏、以下同じ)が政治に干渉しないようになってから15日が経った。母は喜んでいる。15日間、政治的話題のいかなる発信も行っていない。発信をするたびに母の寿命が5年縮んだ。両親の涙に自分は毎日高い代償を払っていた。だから明日自分が大統領になったとしても、両親に何かあれば満足できない。全社会にお許しいただきたい。当分政治から身を引く」とインスタグラムの呼びかけに投稿した。

・ (本年)5月、「ア」氏はトルコからウズベキスタンに帰国し、野党「エルク」の活動を再開する意向を発表した。同月下旬、同氏はBBC ウズベクのインタビューにおいて、同党の会合中にホレズム州にある彼の自宅が男女の集団によって襲撃を受けたと述べた。

(7月12日付 Gazeta)

●テルメズ郊外におけるアフガニスタン難民用キャンプの設置：論説記事

・ 地元住民は、ウズベキスタン南部の都市テルメズ郊外にテント村が建設されており、これは隣国アフガニスタンからの難民の流入を事前に見越したもので、(想定される)難民の多くは現在「ア」政府軍とタリバン軍の戦闘に現在巻き込まれている「ア」人であると述べた。

・ テルメズに拠点を置くジャーナリストであるアブロル・クランムラドフ氏は、7月3日に「ア」との唯一の正式な国境であるハイラトン国境前哨基地を訪れ、同氏はテントを視察することは許可されなかったが、治安機関職員がキャンプの存在を確認した旨 Eurasianet に語った。

・ 同氏は、「国家保安庁職員によると、テントは緊急事態や予期せぬ事態に備えて建設された。テントにはまだ誰もいない」と述べた。この地帯を警備している将兵は、ジャーナリストの写真撮影を許可し

なかった。

・友好橋は、ソ連軍がアフガニスタンに侵攻しその後撤退したルートとして有名な道路・鉄道網であり、テルメズから約18キロ離れている。テルメズは、「ウ」・「ア」間の自然の国境線となっているアムダリア川北岸に位置している。友好橋とテルメズとの間の地域はほとんど砂漠であるが、いくつかの小集落がある。そこにテントが設置されている。

・キャンプのレイアウトを知る別のジャーナリストは、ベッド、いくつかの通信機器、フィールド機器が備えられた少なくとも80張の大テントが該当地区に設置されていると Eurasianet に語った。そのジャーナリストは匿名を条件に「しかし、正直なところ、その気温は非常に高く60度近くである。そこでどうやって生活できるの分からない」と語った。

・国家保安庁は、キャンプの計画に関して詳細情報を求める Eurasianet の照会に応じなかった。

・7月2日付ブルームバーグによると、バイデン政権は、米軍と協力したことにより（タリバーン等から）報復を受ける可能性のある最大9,000人の「ア」人を一時的に收容するよう「ウ」、カザフスタン、タジキスタンに対して要請した。

・報道によると、約1万8,000人のそのような「ア」人が、後に難民認定を受けるための特別移民ビザの申請手続きを行っている。しかし、ブルームバーグによると、現在手続きを行っている一部の人は、承認が下りるまで第三国に收容されなければならない。

・テルメズのテント施設が、これらのビザ申請者を対象としているのか、アムダリア川対岸（「ア」）で起きている騒乱から逃れる者を対象としているか明らかではない。

・「ア」における戦闘が（物理的に）近いことから、「ウ」内、特にテルメズにおける「ア」コミュニティ内で恐怖心が芽生え始めている。

・匿名を条件とするジャーナリストは、「テルメズには一時的に働いたり生活したりしている『ア』人が多くいる。私を知る『ア』人は母国に戻ることを希望していない」と Eurasianet に語った。

・アブドゥカディル・ナヴォイ氏（50歳）は、「ア」北部の州であるファリヤブで生まれたが、「ウ」の首都タシケントに16年間住んでいる。同氏は、「ア」の状況が悪化し続ければ、「ウ」における現在約1万人の「ア」人コミュニティは膨れ上がると語った。

（7月3日付 Eurasianet）

●非公認野党「自由な祖国」党の結党

・最近、アレクセイ・ガルシン氏が、あるグループの一部と共に、政党の結党に向けて動き出した。同氏は、ミルジヨーエフ大統領の「ショヴォズソイ」保養地（宮殿）の問題を暴露したことでウズベキスタン社会において知られている。

・「Ozod Vatan（自由な祖国）」と名付けられた同党は、現在ソーシャルメディアで宣伝を行っている。同党の憲章、綱領、草案は一般向けに公開されている。

・「ウ」で新党が結成されるというこのニュースは、アツラクーロフ教授が率いる「真実と進歩」党が失敗し、同党に対して現在も圧力がかけられているという事実を想起させる。

・現在、「自由な祖国」党の創始者グループに「真実と進歩」党の一部の活動家が参加したと言われている。「自由な祖国」党は、「真実と進歩」党から教訓を得て、国民を特に政治的覚醒に向かわせようとしている。

・「自由な祖国」党の創始者の一人であるガルシン氏が「Amerika Ovozi」に語ったところによると、同党の活動家は、個人的な知見に基づいて、政治的活動に向けて奮起を促している。なぜならば、社会が今覚醒しなければ、覚醒がより一層遅れる可能性があるからだ。

・「自由な祖国」党は、「ウ」のクラスター制度（注：特定の地域における綿・繊維産業複合体等を指すものと思われる）の廃止、大統領に対する弾劾及び不信任決議（に関する制度の整備）、民営化プロセスの再考などを提案している。

・ガルシン氏は、「ウ」政界に野党が誕生しない限り、「ウ」は変わらないと考えている。

（7月25日付 Amerika Ovozi）

【治安】

●シルダリア州における国際テロ組織「カティーバ・アル・タウヒード・ワル・ジハード」メンバーの拘束

・Podrobno.uz の特派員は内務省のデータを引用しつつ、7月17日、シルダリア州において、治安機関の職員が国際テログループ「カティーバ・アル・タウヒード・ワル・ジハード」のメンバー9名を拘束したと報じる。

・被拘束者は、シルダリア州及びスルハンダリア州の住民である。地下壕のメンバーは、露において働いていた時期に勧誘され、彼らはテロリストに対し物的援助を行い、戦闘行為に参加するためにシリアへの渡航を将来的に計画していた。

・ウズベキスタンへの帰国後、被拘束者は、親戚及び知人の間で、並びにインターネットを通じて急進的過激思想やテロリズム思想の拡散を開始した。

・当該事実により刑事事件が提起され、取調べが行われている。

（7月20日付 Podrobno）

●国際テロ組織「ヒズブ・タフリール」のメンバーを逮捕

・ウズベキスタン諜報機関は、国際テロ組織「ヒズブ・タフリール・アリ・イスラミア」のグループを立ち上げた疑いで数名を拘束した。

・ジザク州内務省及び国家保安庁の職員は、作戦の過程で、過激思想グループ「ヒズブ・タフリール・アリ・イスラミア」の活動を阻止したと述べた。被拘束者数は明示されていない。

・取り調べによれば、捜索において、被疑者らの当該国際テロ組織への関与を裏付ける物的証拠が押収された。刑事事件が提起され、取り調べが続けられている。

・6月末、サマルカンド州において、治安機関職員は、同国際テロ組織のグループを立ち上げた疑いのある者6名を逮捕していた。

・また、2020年9月には諜報機関が、テロ組織への参加の疑いで15名を摘発していた。

※イスラム解放党（ヒズブ・タフリール・アリ・イスラミア）

（1）世界各国においてテロ組織と認定されており、露においては、2003年の最高裁決定により、その活動が禁止されている。

（2）同組織の目的は、非ムスリム国家の根絶と、「全世界カリフ制」を創設することによる全世界規模でのイスラム国家を作ることである。

(3) 同組織のメンバーは、露の各地域、特に露中央部の主要都市や、ヴォルガ、シベリア、更にはクリミアでも頻繁に逮捕されている。

(7月22日付 Sputnik)

●ウズベキスタン・タジキスタン両軍による合同軍事演習の実施

・ウズベキスタン国防省広報部によると、7月26日～30日、「ウ」東部軍管区「グルムサライ」野外訓練場において、「ウ」・タジキスタン両軍が参加して「戦闘協力-2021」という名の特別戦術演習が実施された。

・同演習において、両軍は専門的スキル及び経験を共有した。

・同演習は7月30日に終了し、終了式には、ホルムハメードフ・「ウ」国防省第一次官兼国軍参謀総長及びカシーモフ・「タ」国防省顧問少将が出席した。

・なお、(7月30日より)スルハンダリア州「テルメズ」演習場において、「ウ」・露軍が共同軍事演習を行っている。8月10日まで実施される同演習において、両国軍の仮想敵の潜伏拠点の搜索、発見及び殲滅、また仮想敵からの想定される攻撃への対処などの訓練が実施される。

(7月31日付 Gazeta)

【新型コロナウイルス】

●ウズベキスタンの新型コロナウイルスワクチンの入手に関する今後数か月の見通し

・ガニーエフ下院議員が保健省のデータを引用して伝えたところによると、ウズベキスタンは、今後数か月間において482万回分の新型コロナウイルスワクチンを受領する。

・同議員によると、7月20日～25日、中国・「ウ」ワクチン「ZF-UZ-VAC2001」400万回分が「ウ」に追加的に届けられる予定である。

・さらに、8月に露製ワクチン「スプートニクV」16万回分の供給が予定される。

・8月～9月に、「ウ」はCOVAXプログラムの枠組で、世界保健機関(WHO)により承認されたAstraZeneca又はModernaのいずれかのワクチン66万回分を受け取ることになっている。

・7月5日時点で、744万回分のワクチンが「ウ」に届けられ、このうち510万回分のワクチンが本日までに利用された。

・本年1月、ユスパリーエフ衛生疫学福祉・公衆衛生局長は、「ウ」へのPfizer ワクチン10万回分の供給が予定されていると述べた。

(7月14日付 Gazeta)

●露製ワクチン「スプートニクV」9万回分の到着

・保健省広報部は、9万回分の露製ワクチン「スプートニクV」のさらなるバッチが露からウズベキスタンに届けられたと述べた。今回の供給分には一つ目の構成要素である7万回分と、二つ目の構成要素である2万回分が含まれていた。

・合計で、ウズベキスタンは、753万回分のワクチンを受領した。7月14日時点で、「ウ」国内において527万回分のワクチンが投与された。

(7月15日付 Gazeta)

●アゼルバイジャンがウズベキスタンに AstraZeneca ワクチン 5 万回分を提供

- ・（7月15日）アゼルバイジャンは、COVAXプログラムの枠組を通して（購入した上で）、ウズベキスタンに欧州製 AstraZeneca ワクチン 5 万回分を提供した。
- ・ユニセフと協力して全世界に平等にワクチンを供給することを目的としたこのオペレーションにより、「ウ」が受領した新型コロナウイルスワクチンは 7 5 8 万回分となった。
（7月16日付ウズベキスタン保健省公式テレグラムアカウント）

●18歳以上の特定の 카테고리의国民を対象とした新型コロナウイルスワクチン接種の義務化

- ・保健省広報部は、ウズベキスタンは、18歳以上の国民の一連のカテゴリを対象とした新型コロナウイルスワクチンの義務的な予防接種を導入する旨発表した。
- ・（新型コロナウイルス）ワクチンの完全接種を受けなければならない国民のカテゴリは以下のとおり。
 - （1）市民と接する全種類のサービス施設（公的サービスセンター、郵便局、銀行、リース会社、公証人役場、保険会社、美容院、床屋など）の職員
 - （2）全種類の商業施設（食料品店、日用品店、衣料品店、薬局など）の職員
 - （3）スポーツスクール及びスポーツ施設の職員
 - （4）文化・娯楽施設及びレクリエーションエリアの従業員
 - （5）旅館、ホテル、ホステル、寮及びキャンプ場の職員
 - （6）旅客輸送を行う国営及び私営組織の職員
 - （7）国立及び私立教育機関の職員
 - （8）軍人
 - （9）飲食店、特に公共の場所にあるファーストフード店、チャイハナ、結婚式場、カフェ及びレストラン（食料品のデリバリーを行うものを含む）の従業員
 - （10）全種類の国立及び私立の医療施設及び医療福祉施設の従業員
 - （11）公共事業分野の従業員
 - （12）通信及び電気通信施設の従業員
 - （13）国家権力及び国政機関の職員
 - （14）法執行機関の職員
- ・上記の者は、新型コロナウイルスワクチンの1回目の接種を9月1日までに、2回目の接種を10月1日までに、3回目の接種を11月1日までに受けなければならない（健康上の禁忌がある場合以外）。
（7月17日付 Gazeta）

●飲食店の営業に対する規制強化

- ・ウズベキスタンでは飲食店の営業に対する規制が厳格化される。本件について、新型コロナウイルス対策特別共和国委員会の決定を引用して、保健省広報部が発表した。
- ・7月20日以降、飲食店（レストラン、カフェ、食堂及びチャイハナ）は、屋外（夏季のテラス）においてのみ、8時から20時まで営業が許可される（注：また、デリバリーは、8時から23時まで営

業が許可される)。

(7月17日付 Gazeta)

●結婚式及びその他の家族行事への参加者数の制限

・ウズベキスタン保健省は、7月20日以降、結婚式及びその他の家族行事への参加者数の制限を導入する旨発表した。

・これらのイベントを屋内の結婚式場及びレストランで開催する際、参加者数は50人を超えてはならない(近親者及び同一地域に住むその他の親族)。

・屋外でイベントが開催されるならば、参加者数は100人となり得る。同制限は、(本年)4月に定められた。

・以前、8月1日以降、家族行事の参加者数が50人に制限される旨発表された。当該決定は、国内における新型コロナウイルス及び肺炎の感染者数が引き続き増加していることが原因で再検討された。

(7月19日付 Gazeta)

●中国製ワクチン第八弾のウズベキスタンへの到着

・保健省広報部が発表したところによると、7月20日、中国からウズベキスタンに中国・「ウ」の新型コロナウイルスワクチン「ZF-UZ-VAC2001」のさらなるバッチ100万回分(第八弾)が到着した。

・これまでに、「ウ」は750万回分の「ZF-UZ-VAC2001」ワクチンを受領した。この他、AstraZeneca ワクチン71万回分及び露製ワクチン「スプートニクV」37万回分が供給された。「ウ」に届けられたワクチンの備蓄の総量は858万回分となった

・7月19日時点のデータによると、「ウ」全国で100万人以上がワクチン接種を完了しており、これは常住人口(2021年上半期は3,486万人)の2.9%にあたる。

(7月20日付 Gazeta)

●中国製ワクチン第九弾のウズベキスタンへの到着

・保健省広報部によると、7月21日、中国・ウズベキスタンが共同開発した新型コロナウイルスワクチン「ZF-UZ-VAC2001」のさらなるバッチ100万回分(第九弾)がタシケント国際空港に到着した。

・これまでに「ZF-UZ-VAC2001」ワクチンは以下のとおり供給された。

(1) 3月27日 100万回分

(2) 4月27日 100万回分

(3) 5月18日 100万回分

(4) 5月19日 50万回分

(5) 6月10日 100万回分

(6) 6月29日 100万回分

(7) 6月30日 100万回分

(8) 7月20日 100万回分

・これまでに「ウ」に届けられたワクチンの総量は958万回分となった。ワクチン毎の内訳は以下のとおり。

- (1) 37万回分 スプートニクV
 - (2) 71万回分 AstraZeneca
 - (3) 850万回分 ZF-UZ-VAC2001
- (7月21日 Kun. uz)

●ミルジヨーエフ大統領によるウズベキスタン国民に対する新型コロナウイルスワクチン接種の呼びかけ

・金曜日（7月23日）のテレビ会議において、ミルジヨーエフ大統領は、新型コロナウイルスワクチンを接種するようウズベキスタン国民に呼びかけた。同会議のビデオは、アサードフ大統領報道官が公開した。

・「ミ」大統領は、「我々は非常に慎重にならなければならない。パンデミックがその力を再び示している。この目に見えない敵は我々と大きな戦いを繰り広げている。だから、ワクチン接種、ワクチン接種、そしてもう一度ワクチン接種（が必要なもの）である」と述べた。

・「ミ」大統領は、「ウ」が「多大な努力を払ってワクチンを運んでいる」と述べた。同大統領によると、8月4日に「ウ」はさらに300万回分のワクチンを米国から受領する。同ワクチンはモデルナと推測され、同ワクチンの供給計画は以前報じられた。

・「ミ」大統領は、「現在、我々には250万回分のワクチン（の備蓄）があるが、国民はワクチンを信用してない。国民の中で多くの損害が出ている。今一度国民に対して訴えかけ、秩序、規律及び自身の健康への配慮を呼びかける。無関心になってはならない。我々の間には見えない敵がいる。見てのとおり、病院は再び満床になっている。かつて、我々は全てを閉鎖した、そのことはご承知だろう。現在のパンデミックは非常に困難なものであり、それがいつ終わり次に何が起きるか誰も分からない」と述べた。

(7月23日付 Gazeta)

●新型コロナウイルスワクチン「ZF-UZ-VAC-2001」をウズベキスタンで生産することで合意

・7月24日、ウズベキスタン・イノベーション発展省において、中国・ウズベキスタン（が共同開発した）新型コロナウイルスワクチン「ZF-UZ-VAC-2001」の「ウ」国内における生産の開始に関する交渉が行われた。

・同省広報部によると、交渉には、アブドゥラフモーフ同省大臣、カリーエフ製薬産業発展庁局長、合併企業「Jurabek Laboratories」の代表者、中国側からは、Wang Zhi Xiong「Anhui Zhifei Longcom Biopharmaceutical」チーフエンジニア、ChenFang 輸出部局長他が出席した。

・同省発表には、「Anhui Zhifei Longcom Biopharmaceutical」の代表者らは、「ZF-UZ-VAC-2001」ワクチンの臨床試験に対する「ウ」の貢献及びオープンかつ透明性の高い「ウ」側の取組みを高く評価したと記載されている。

・中国のパートナーは、「ウ」における新型コロナウイルスワクチンの生産インフラ能力を高く評価した。Wang Zhi Xiong チーフエンジニアは、「ウ」国内の生産施設はワクチン生産の要件と完全に合致すると指摘したと発表に記載されている。

・会談では、「ウ」におけるワクチン生産のための原材料を中国から納入する時期及び分量について暫

定合意に達した。生産開始日は明確ではないが、「近い将来に」生産されることになっている。第一フェーズでは、月間1,000万回分のワクチンを生産する可能性が検討されており、その後、ワクチンの生産数を年間最大2億回分に増やすことが計画されている。

・ワクチン生産技術分野における「ウ」の科学者及び専門家の技能を向上させるために、近い内に、中国及び「ウ」において同時研修を開始する予定である。

(7月26日付 Gazeta)

●新型コロナウイルスワクチンの国内生産に関するミルジヨーエフ大統領による発言

・「Gazeta」の特派員は、水曜日(7月28日)のテレビ会議において、ミルジヨーエフ大統領が、ウズベキスタンにおける疫学的状況の悪化を指摘した旨報告した。

・なお、7月27日、「ウ」において843人の新型コロナウイルスの新規感染者が確認された。これはパンデミックが始まって以来、過去最多の感染者数である。新型コロナウイルスに感染した8人が死亡した。さらに556人が肺炎と診断された。7月初めから60人が肺炎で死亡した。

・「ミ」大統領は、再び国民に対して新型コロナウイルスのワクチン接種を受けるよう呼びかけ、7月29日に「ウ」は300万回分のモデルナワクチンを受領すると述べた。同ワクチンは、以前報告されたように、COVAXプログラムを通して米国により無償で供給される。

・「ミ」大統領は、「(新型コロナウイルス感染者の内)ワクチン接種を受けた者は4日で退院し、ワクチン接種を受けていない者は非常に重篤になっている。確かに、ワクチン接種をした後にも新型コロナウイルスに感染する可能性はあるが、病状は軽度である」と強調した。

・「ミ」大統領は、「スプートニクV」ワクチンの「ウ」における共同生産に関する露指導部との交渉が行われており、また「ウ」は「ウ」・中国ワクチン(ZF-UZ-VAC2001)を(国内)生産する予定であると述べた。

・「ミ」大統領によると、「ウ」は自国産ワクチンを世界保健機関(WHO)に検討してもらうために送付した。

・「ミ」大統領は、「私は今朝科学者の研究論文を読んだ。それによると、新型コロナウイルスと少なくとも後10年闘わなければならない。だから我々は『スプートニクV』及び『ウ』・中国ワクチンの生産を議論している。また自国産ワクチンをWHOに送付した。このために多額の資金が割り当てられている」と述べた。

・「ミ」大統領は、14のグループの国民を対象としたワクチン接種の義務化についてコメントした。同大統領によれば、これは必要に迫られた措置である。

(7月28日付 Gazeta)

●新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」のウズベキスタンにおける生産予定

・ウズベキスタンは、露から証明書を受領した後、新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」の生産を開始する旨発表した。「Gazeta」の特派員が報告したところによると、7月29日にミルジヨーエフ大統領がアルマリク市を訪問した際、カリーエフ製薬産業発展庁局長が本件について発表した。

・「カ」局長によると、製薬会社「Jurabek Laboratories」は「スプートニクV」ワクチンの試薬を生産し、試験及び品質証明のためにそれらを露国立ガマレヤ疫学・微生物学研究所へ送付した。今後、同

研究所が、「ウ」におけるワクチン生産を承認することになっている。

・「カ」局長は、「我々は8月の1週目にポジティブな回答を期待している。その後、『Jurabek Laboratories』の工場において生産が開始される予定である」と述べた。

・ルトフラーフ「Jurabek Laboratories」生産責任者が「Gazeta」に語ったところによると、第一フェーズにおいて、同社の工場は「スプートニクV」ワクチン200万回分及び中国・「ウ」ワクチン1,000万回分を生産する予定である。

・同生産責任者は、「スプートニクV」の生産開始時期を尋ねられたところ、「現在、ガマレヤ研究所からワクチンの原料が供給される見込みである。8月中旬に箱詰めを開始した場合、8月末にそれらを納入する予定である」と述べた。

・同生産責任者は、中国・「ウ」ワクチンの生産が中国の代表団によって検討されていると付言した。工場の技術及び技術的能力が肯定的に評価された後、ワクチンサンプルは、試験及び品質証明のためにウズベキスタンから中国に送付される。

(7月29日付 Gazeta)

●ウズベキスタンの新型コロナウイルスワクチン入手の見通し

・「Gazeta」の特派員によると、7月29日、ミルジヨーエフ大統領は、アルマリク市訪問中に、合弁企業「Jurabek Laboratories」の新型コロナウイルスワクチンの生産プロセスを視察した。

・（ウズベキスタン政府は、11月1日までに国民の70%にワクチン接種を行うために）さらに1,790万回分の新型コロナウイルスワクチンを購入する予定である（内訳は下記のとおり）。

- | | |
|---------------------|----------|
| (1) モデルナ | 300万回分 |
| (2) Pfizer/BioNTech | 120万回分 |
| (3) ZF-UZ-VAC-2001 | 1,200万回分 |
| (4) スプートニクV | 170万回分 |

・また、ワクチン接種を実施するために、982台の冷蔵庫及び冷凍庫、並びに545台のコンピューターが購入される予定である。

・2021年に購入された全ワクチンの費用は4,476万1,500米ドルであった。この内、「ウ」・中国ワクチンが3,910万米ドル、スプートニクVが368万1,500米ドル（850万回分）、AstraZeneca ワクチンが198万米ドルであった。

(7月29日付 Gazeta)

●モデルナワクチンのウズベキスタンへの到着

・「Gazeta」の特派員は、金曜日（7月30日）早朝、米国製新型コロナウイルスワクチンのモデルナ300万60回分のバッチが、米国からウズベキスタンへの特別便により到着した。このバッチは、COVAXファシリティの枠組を通して米国政府により供給された。

・約30トンの（モデルナを積載した）貨物は、ムサーエフ副首相、ハジバーエフ保健大臣、ユスパリーエフ衛生疫学福祉・公衆衛生局長及びその他の当局者、並びにローゼンブルーム駐「ウ」米国大使、メレディス米国国際開発庁（USAID）「ウ」事務所長、マンメザーデUNICEF「ウ」事務所長及びフィッツパトリックWHO「ウ」事務所長代行によって迎えられた。

・モデルナ (Ribonucleic Acid Matrix mRNA Vaccine) は、米国で使用されている三つの新型コロナウイルスワクチンの内の一つであり、WHOによって緊急使用が承認された六つのワクチンの内の一つである。モデルナのワクチン接種は、28日の間隔を置いて2回行われることになっている。同ワクチンは、摂氏-25度~-15度で保管しなければならない。また、+2度~8度、つまり通常の冷蔵温度であれば30日間保管できる。

・ハジバーエフ保健大臣は、「ワクチンに対する国民の信頼は徐々に高まっており、これに伴いワクチン接種率が高まっている。現在、毎日20万人以上がワクチン接種を受けている」と述べた。

・また、クルバーノフ衛生疫学福祉・公衆衛生局副長官は、モデルナワクチンは18歳以上の全カテゴリーの国民のワクチン接種に利用できると述べた。18歳未満を対象とした「ウ」におけるワクチン接種の開始時期を確認するために「Gazeta」が質問したところ、まだそれを行うには時間がかかると指摘した。「ク」副長官は、これまでに「ウ」は958万回分のワクチンを受領しており、その大部分は中国・「ウ」ワクチン「ZF-UZ-VAC2001」850万回分であると述べた。7月29日時点で、698万回分のワクチンが使用された。(使用されたワクチンの内)85%が「ZF-UZ-VAC2001」、10%がAstraZeneca、5%が露製ワクチン「スプートニクV」であった。約115万人がワクチン接種を完了している。

・マンメザーデUNICEFウズベキスタン事務所長は、COVAXメカニズムの枠組で、本年3月に「ウ」がAstraZeneca ワクチン66万回分を受領したことを想起した。本年7月にUNICEFの要請に基づいてアゼルバイジャンが「ウ」に同ワクチン5万回分を供給している。「マ」事務所長は、「9月にさらにAstraZeneca ワクチン66万回分及び(同ワクチンの)追加寄付27万6,000回分、9月~10月にPfizer121万4,000回分(の供給)を見込んでいる」と述べ、「『ウ』の全地域が、モデルナなどのワクチンを-20度で保管する能力を確保したことを既に確認した。そしてこの能力はさらに強化され、保管温度がより低いPfizerなどのワクチンを国内で利用できるようになる」と述べた。「マ」事務所長は、COVAXの枠組で供給されるワクチンを本年末までに少なくとも「ウ」国民の20%に接種することが課題であると付言した。

・7月29日、「ウ」政府は本年11月1日までに国民の70%にワクチン接種を行う計画を発表している。

(7月30日付 Gazeta)

●ミルジヨーエフ大統領が新型コロナウイルスワクチン接種を完了

・ミルジヨーエフ大統領が新型コロナウイルスワクチン接種を完了した。アサードフ大統領府報道官が8月2日のブリーフィングで本件について発表した。

・同報道官は、「『ミ』大統領は責任ある国民としてももちろんワクチン接種を受けた。ワクチンの種類に関しては、同大統領が接種した時、三つのワクチン、すなわち『ZF-UZ-VAC2001』、『スプートニクV』及び『AstraZeneca』がウズベキスタンにおいて登録されていた。同大統領はこれらのワクチンの内一つを接種し、ワクチン接種の全段階を終了した」と述べた。

(8月2日付 Gazeta)

●「公衆の衛生・疫学的福祉の確保を目的としたウズベキスタン共和国の一部の法令の改正及び追加に関する」法律

・ミルジヨーエフ大統領は、「公衆の衛生・疫学的福祉の確保を目的としたウズベキスタン共和国の一部の法令の改正及び追加に関する」法律に署名した。当該改正は8月3日に発効した。

・「国民の健康保護に関する」法律第28条は、今般、「国民の同意なしの医療提供、予防接種」という名称となった。当該条文には次の規定が補足された。「検疫感染症及びその他の人間にとって危険な感染症の蔓延の恐れがある場合、『ウ』共和国国家主任衛生医師の決定に基づき、法律で定められた手順により公衆に対する予防接種の実施が導入され得る。」

・労働法第113条（「停職」）の条文には、検疫感染症及びその他の人間にとって危険な感染症の蔓延の恐れがある時に国家主任衛生医師の決定に基づいて実施が導入される予防接種を従業員が拒否する場合（健康上の理由による禁忌がない時）、雇用主は当該従業員の出勤を許可しない権利を有する旨の規定が補足された。

・当該法律は、7月27日に下院で可決され、7月31日に上院で可決された。当該改正は、新型コロナウイルスの蔓延を抑制する必要性から立案された。

（8月3日付 Gazeta）

【その他】

●在マザリシャリフ露総領事館の一時閉鎖と同館職員のウズベキスタンへの退避

・アフガニスタンのハイラトンで勤務していた在マザリシャリフ露総領事館の外交官はウズベキスタンに移動された。カブルジャーノフ・ウズベキスタン外務省報道官がこれについて表明した。

・同報道官の声明には、「現在、ハイラトンにある露総領事館で勤務していた外交官はウズベキスタン領内に無事に護送されたことを確認する」と述べられている。

・以前、アフガニスタンのTVチャンネル「1TVニュース」は、トルコ、パキスタン、イランの領事館は、タリバーンの勢力拡大を受けて同地域が安全ではない可能性があるという危惧からマザリシャリフでの業務を一時的に停止した旨報じた。リアノーヴオスチは、在マザリシャリフ露総領事館は「状況が明らかになるまで」閉鎖された旨報じた。

（7月12日付 Gazeta）

●ウズベキスタン人オリンピックスタッフが国立競技場内での性的暴行容疑で逮捕される

・ジャパントイムズは、近日中に2020年の夏季オリンピックの開会式が開催される国立競技場の側で女性に性的暴行を加えた疑いで、ウズベキスタン国籍の者（30歳）が東京で拘束されたと報じた。

・警察によると、7月16日晚、学生D. Rは、競技場の観覧席の側で20代の女性に性的暴行を加えた。マスメディアは、当該学生が女性と知り合ったのは事件当日で、事件は彼らがオリンピックの開会式のリハーサルを観賞した後に起きたと報じた。男女ともにオリンピックの準備に関わる作業に動員されていた。

・NHKが報じたところによると、容疑者は、女性は「自分（同容疑者）の行動に抵抗しなかった」と指摘し、容疑を否認した。

・「ウ」国家オリンピック委員会広報部は、容疑者は同国のスポーツ代表団の一員ではない旨「Gazeta」に述べた。

（7月19日付 Gazeta）

2. 経済

【景気・経済統計】

特になし。

【経済政策】

特になし。

【産業】

特になし。

【対外経済】

●在日ウズベキスタン大使館とセブンイレブン・ジャパン株式会社との会談

・7月21日、在日ウズベキスタン大使館は、安井誠セブンイレブン・ジャパン株式会社ゼネラルマネージャー他同社社員と会談を行った。

・会談の中で、双方は、「ウ」人にとってより好ましい条件を整えるための協力関係の拡大の見通し及びセブンイレブン・ジャパン株式会社の組織内における「ウ」人の昇進の可能性、並びに情報通信技術、会計、財務分野のポストへの「ウ」人の配置について議論した。

・また、安田ゼネラルマネージャーは、今日、「ウ」人は、セブンイレブン・ジャパン株式会社内の組織で働く外国人従業員として最も多い、ベトナム、ネパール、中国を含む上位4か国の一つであることを満足の意をもって指摘した。同氏はまた、同社の2年及び4年間の研修プログラムに「ウ」人専門家を招へいする見通しについても言及した。

・双方は、「ウ」と日本との間の協力レベルの高まり、有望な協力分野を拡大するというセブンイレブン・ジャパン株式会社の意欲を指摘した。特に、日本における同社の小売ネットワークを通じた「ウ」産の製品の販売、並びに将来的に「ウ」にフランチャイズ方式で同社のチェーン店の展開について議論した。

・会談の結果、日本の大学で学んでいる「ウ」人が学業を中断することなく、セブンイレブン・ジャパン株式会社の組織で働くための許可を日本政府から得るための共同作業、並びに同社のネットワークを通して販売される可能性がある商品を検討することについて合意がなされた。

(7月22日付 UzDaily)

【エネルギー分野】

●サマルカンド州及びジザク州における太陽光発電所のUAE企業による建設プロジェクトの署名式

・エネルギー省広報部は、7月12日、タシケントにおいて、サマルカンド州及びジザク州に建設される二つの太陽光発電所に関するMasdar社(UAE)とのプロジェクト契約の署名式が行われた旨伝えた。

・サマルカンド州カッタクルガン地区及びジザク州ガッラアラル地区におけるそれぞれ220MWの発電容量を持つ太陽光発電所プロジェクトの公開入札が、国際金融公社(IFC)の技術支援の下で国際基準に準拠して実施された。

・Masdar 社は、2021年5月の入札において落札者となった。エネルギー省は、同社の強みの一つは、同太陽光発電所において発電される電力を25年に亘って記録的に安価な料金体系に基づいて供給する提案であった旨明確にした。つまり、ジザク太陽光発電所の電力は1kWhあたり1.823セント、サマルカンド太陽光発電所の電力は1kWhあたり1.791セントの料金体系に基づき共通電力網に供給される。

・Masdar 社は、これらのプロジェクトに最大3億米ドルを投資することが期待されており、2021年12月に支払いが行われ、2022年第1四半期に建設が開始される予定である。

・エネルギー省は、これらの発電所が、太陽光発電所及び風力発電所の出力を含む、再生可能エネルギーによる発電を2030年までに最大8GWに到達させるという課題の実現に寄与する旨指摘した。また、これにより、温室効果ガスの年間排出量を二酸化炭素換算で約50万トン削減することができる。

(7月12日付 Gazeta)

【運輸交通分野】

●タシケント・メトロによる露製車両の購入

・タシケント・メトロは、露製列車10本を6,330万ユーロで購入する。これについて、7月12日付政府決定(第435号)により承認された当該プロジェクトのF/Sで言及された。

・「Gazeta」は既に4月に、タシケント・メトロと露対外経済銀行「VEB.RF」が、露のトランスマッシュ・ホールディング社製のメトロの列車の供給に関する融資契約に署名した旨報じた。

・当該プロジェクトの調達資金として、「VEB.RF」による3,040万ユーロ(年利1.85%)及び「露輸出入銀行」による2,440万ユーロ(年利0.51%)の融資が指定されている。残りの870万ユーロは、国家予算から割り当てられる予定である。

・車両自体の価格は5,070万ユーロである。残りの費用は、部品、信用保険、金融費用、通関手続などである。

・ウズベキスタンは、「VEB.RF」からの融資を2031年までに返済しなければならず、(返済)額は利息及び手数料を考慮に入れて、310万ユーロ増の最大3,350万ユーロとなる。露輸出入銀行からの融資は2032年までに返済されなければならない。(返済)額は利息及び手数料を考慮に入れて、80万800ユーロ増の最大2,520万ユーロとなる。

・今夏にも、最初の5本の列車が納入される予定である。可動式の列車はモスクワ州の「メトロワゴンマッシュ」社で生産される。(納入される)新たなメトロ車両から、それぞれ4両編成の10本の列車が形成される。

(7月13日付 Gazeta)

●マフカーモフ運輸大臣とマミン・カザフスタン首相との会談

・マフカーモフ運輸大臣は、マミン・カザフスタン首相と会談を行った。

・双方は、輸送及び運輸分野における協力の見通し、特に貨物輸送量の増加、鉄道及び自動車輸送の発展、大規模共同インフラプロジェクトの実施を議論した。

・両国の戦略的協力は、今日、輸送及び運輸分野を含む全ての分野でダイナミックに発展している。両国は、二国間貿易量を増加させるために、運輸・物流能力を向上させるための措置を講じている。

・ 2021年1月～5月、二国間貿易量は46%増加し、15億米ドルとなった。「カ」の「ウ」への輸出货量は58.4%増加した。パンデミックにもかかわらず、二国間のあらゆる種類の貨物輸送量が増加した。

・ 2021年第1四半期だけでも、コンテナ輸送量は前年同期比で57%増加し、23万3,900TEU（20フィートコンテナ1個を単位としたコンテナ数量）に達した。本年上半期の自動車道による貨物輸送量は18%増加し、130万トンに達した。

・ 双方は、本年7月29日から新規運航路線「アクトベークス」を週2便運航させることで合意に達した。現在、両国間で32便の飛行機が運航している。

・ 会談において、双方は、「ダルバザーマクタアル」間の新鉄道路線の建設、「トルキスタン－シムケント－タシケント」間的高速鉄道の建設などの大規模共同インフラプロジェクトの実施を議論した。

（7月27日付運輸省ウェブサイト）

【ドナーの動向】

特になし。

【その他】

特になし。

3. 広報文化

特になし。